

日刊 動労千葉

85. 3. 12

No. 1886

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六・公衆)〇四七二(二二)七二〇七

3・24三たびの五割動員を



日帝・中曽根は、「戦後政治の総決算」をかけた軍事大国化・改憲攻撃の最大の焦点として、「三里塚」と「国鉄」に対し全体重をかけた解体攻撃を急ピッチで加えてきている。われわれは、侵略戦争への道を許すのか否かをかけて、三里塚二期・国鉄労働運動解体攻撃とたちむかい、勝利をかちとらねばならない。「60・3ダイ改」阻止闘争に唯一、実力決起し闘いぬいた力をもって、3・24三里塚への三たびの五割決起を労働者人民の最先頭で実現し、80年代後半を闘いぬくための出発点としようではないか。

戦争への道を阻止するために 二期を許すな

中曽根は軍事大国化・改憲攻撃と侵略戦争への道を突進しはじめた。

三里塚二期工事の暴力的着手がそれである。中曽根の85年二期強行宣言をもって、土地収用委員会による団結小屋の年内撤去をはじめとする強制土地収用策動、二期工事用道路建設、自主耕作地破壊―代替地移送、成田用水工事等々、二期着工にむけた農地強奪、反対同盟破壊の凶暴な攻撃にでてきている。9・16東峰裁判へのデッチ上げ重罪求刑は、反対同盟破壊を狙った断じて許せぬ攻撃である。

反対同盟は、20年間にわたり日帝の戦争と反動の攻撃と対決し、空港建設を實力で阻止する闘いを通して、三里塚を反戦・反権力闘争の最大最強の砦としてうち固めてきた。

この三里塚闘争こそ、日帝・中曽根の軍事大国化・改憲攻撃を粉碎し、労働者の未来を切り拓くことができる闘いなのである。

われわれは、三里塚闘争を絶対に勝利させなければならぬ。そのためには3・24三里塚へ、労働者人民の圧倒的決起が求められている。

三里塚二期と軌を一にした 国鉄労働運動解体攻撃

日帝・中曽根は、三里塚二期攻撃と軌を一にして日本の労働運動の中軸である国鉄労働運動解体の攻撃を強めている。

この三年間、中曽根は臨調・行革の最大の柱に国鉄問題をすえ、国鉄労働運動を叩きつぶせば国鉄危機が解決するかのようなデマキャンペーンを流し、国鉄労働者に対して集中砲火をあげてきた。政府・自民党、臨調、国鉄再建監理委員会、国鉄当局は、87年「分割・民営化」実施と、それまでに15万人の首切りを狙い「三本柱」「60・3」をその突破口に全力をあげた攻撃を加えてきた。

こうした国鉄労働運動絶滅の攻撃をまえに、今こそ死活をかけて闘いに決起しなければならない。

しかし、国鉄労働運動の現状は敵の凶暴な攻撃にすくみあがり、解決不可能な国鉄「赤字」と「危機」問題にふりまわされ、不毛な「再建」論議に埋没し、闘いを放棄し現実の攻撃を許してしまっている。動労「本部」革マルにあつては、国鉄危機は「国鉄労働者の働き度不足にある」などと組合員をだまし、組織をあげて首切り「三本柱」推進運動を展開している。

動労千葉を先頭に中曽根内閣打倒の陣形を強化しよう

動労千葉は、極めて厳しい情勢の中で、こうした状況を突き破る闘いとして「60・3」で唯一、実力闘争に決起した。敵の攻撃は、単に国鉄労働者への攻撃であるばかりでなく、三里塚闘争―労働運動総体への攻撃であるからだ。

われわれの闘いは、労働組合の進むべき道を示すとともに、敵の攻撃に歯止めをかける成果をかちとり、組織の団結を強化した。

「60・3」を闘いぬいた力をバネに、国鉄労働者を先頭とする広範な労働者の三里塚への決起をかちとり、15万人首切り粉碎―反動中曽根内閣打倒の陣形を強化していこうではないか。

そのためにも、3・24三里塚現地集会への三たびの五割動員を実現しよう。

写真は、2度目の「5割動員」で結集した10・10

二期工事実力阻止―東峰十字路裁判闘争勝利、不法収用法弾劾、脱落派粉碎・一掃 3・24全国総決起集会
3月24日(日) 正午
三里塚第一公園
集合 成田運転区 10時
各支部最大限・作業衣(上・下)

